大塚のぶおの市議会報告　　臨時号

JR芦屋駅南の再開発事業予算案の可決をうけて

再開発事業は、一般会計予算、特別会計と２つの財布を持つのですが、一般会計から特別会計へ繰り出して財源にする手法を取っているのです。その繰り入れた財源で用地の取得などに充当するのですが、今まではこれを大幅に減額すること等で２年間に及ぶ"中断"状態となっていたのです。

しかし、先の３月議会では、JR芦屋駅南地区再開発事業のR4年度予算が22日可決されました。これより先の14日に開かれた予算特別委員会で、公明党から昨年同様、駅南の事業予算を減額して待ったをかける修正案が出されました。しかし、これまで我々と同一歩調を取っていた自民党が今回は、行財政改革の肝となる職員数を適切に管理することの言質が市から得られたとして原案の賛成にまわり修正案は否決されました。そして、その後の、本会議で再開発事業に関連する費用を盛り込んだ令和４年度の当初予算案の原案が可決されたのです。

そもそも私が、この事業が問題だと考えていたのは、200億円を超える総事業費が財政を圧迫し、市の貯金である基金を枯渇させてしまうという財政上の理由が発端でした。そして、再開発事業の事業手法はじめ一義的な目的である交通課題の解決のためになぜ、100億円もの巨額の税金をつぎ込む必要があるのか？なぜ、億ションの入る再開発ビルは必要なのか？等々といった理由からです。しかし、今回自民党が賛成に舵を切り、大勢が決することになり、熟慮の末、断腸の思いで予算案原案を認めざるを得ないことからの、やむを得ない賛成という立場を取ったものです。

というのも一般会計予算案には、日々の暮らしに直結する市民サービスの費目が含まれ、これに反対し、止める訳にはいきません。加えて、現在進行中のJR芦屋駅舎改良工事費も含まれます。また、特別会計には職員人件費も計上されており、再開発関連予算費目以外は、いわば"義務的経費"です。市民の気持ちに寄り添う議員としてこれらに「ノー」といってまで予算案に反対するというのは無責任といえるのではないか、と考えました。

工事着工まで１年程度。未だ反対の地権者もおられ残されたハードルの一つと言えます。今後はこの事業の市側の執行に対して手綱を緩めることなく注視していく所存です。

ハラスメント対応に関する決議（3/22)につきまして

一昨年６月の「一般質問」を行なう際に、決議文における当事者の同意を得ないで質問を行なったことは不適切であり、そのことで他の議員に誤解を与えてしまったことは、私の至らぬ点であったものと心より深く反省しております。

当事者、議会関係者の皆様にご迷惑をおかけしましたことを心よりお詫び申し上げます。今回の決議の内容を真摯に受け止め、より市民の皆様のお気持ちに寄り添った活動を行なうべく精進してまいります。

なお、ハラスメント対応に関する決議に関しましては、５月連休後半にも全戸配布されます市議会だよりをご参照下さい。

大塚携帯　090-1674－7747　　HP　nobufr30.com